様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０４１８３

研究課題名（和文）介護施設における倫理的問題の認識対処行動と有効な倫理研修プログラムの開発

研究課題名（英文）Clarification of Nursing Home Care Workers' Awareness of Ethical Issues and Coping, Development of Effective Ethics Training Program

研究代表者
角田　ますみ（SUMITA, MASUMI）

杏林大学・保健学部・准教授

研究者番号：４０３８１４１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、有効な倫理倫理研修プログラムを開発し、評価することを目指した。今回は、問題に「関心」を持つ、周囲と「共有」できる、取り組む「意欲」を持つという点に焦点をあて、ギャラップ社によるStrength Finder(SF)を使用した研修プログラムを開発し評価を行った。SFは個人が持つ資質を診断するツールで、個人の価値観に基づいて無意識に繰り返される「感情・思考・行動の傾向性」を見出すことができる。開発したプログラムを通して自身の行動や考え方の傾向を認識し、それを元に互いの倫理的価値観を共有し合うことで、倫理問題への関心、参加者へのエンパワメント、問題に対する当事者意識等の効果がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の倫理研修は、基礎知識や事例検討などの座学が中心であり、参加者は座学特有の受け身な学習や現場の状況に合わない内容から、倫理問題に関心が持てないでいた。今回はStrength Finder(SF)を使用し、価値観に基づいて無意識に繰り返される「感情・思考・行動の傾向性」と臨床場面でよく生じる具体的な問題を組み合わせることで、倫理的問題への関心を高め、他者の資質を理解することによる視点の広がり、様々な人と協働していく意欲、倫理的問題に対する当事者意識の芽生え、自分の資質や傾向性の理解によるエンパワメントなどプラスの効果がみられ、新たな研修方法の一つとして、学術的かつ社会的意義があると思われる。

研究成果の概要（英文）：Focusing on individuals' abilities and behavioral tendencies, this research aimed to develop an ethics training program for care workers using Strength Finder(SF), a tool developed by a US company, Gallup, to have trainees understand their abilities and tendencies and consciously utilize them as their strengths. I have developed and implemented an ethics training program using this tool with the aim of encouraging trainees to understand their own abilities and tendencies and those of others and deal with specific ethical issues they face while engaging in work, thereby motivating them to develop a feeling of involvement in those issues and change their mindset.
As results, 80% or more of the trainees realized psychological changes, such as increased interest in ethical issues and a willingness to deal with them, and enhanced understanding of others and care receivers.

研究分野：生命倫理学

キーワード：倫理教育　生命倫理　倫理教育プログラムの開発　介護倫理　ケア倫理

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

2011 年の法改正[1]に伴い、医師の指示の下、喀痰吸引や経管栄養の医療行為も追加され、介護職が担う責任の幅が広がっている。このような厳しい現状のもと、介護の質を支えるものが倫理観であり、そのための倫理教育が非常に重要になってくる。しかし、介護福祉士の国家資格取得ルートは多岐にわたり、一貫した倫理教育を受けるとは限らない現状にある。

このようなことをふまえ､筆者は先行研究として介護福祉士養成課程の倫理教育の現状と内容のあり方について検討してきた。その結果、主に基礎的知識を伝授する内容が多く、現場の具体的な問題解決までは対応できていなかった[2]。同様に現場における現任教育でも、対人援助教育という特性から教育内容の「具体性」および「応用性」が共通して求められていたが、実際は、基礎的知識の伝授と事例検討がほとんどを占めているため､「実際の問題解決を望む現場と講義内容がずれている」などの理由により倫理研修は役立たないと考える者も多いことが明らかになった[3]。これらのことから、教育内容が、知識の伝授にとどまらず、受講者が自分のこととして問題に関心を寄せられること、さらに問題を周囲と共有できること、取り組みへのサポート（承認）があるような教育プログラムを組むことが重要であった。今回は現場のニーズに結び付けられるよう、問題に「関心」を持つ、周囲と「共有」できる、取り組む「意欲」を持つという点に焦点をあて、Strength Finder®(以下、SF)を使用した倫理研修プログラムを開発し､実施･評価を行った｡SF は米ギャラップ社が開発した個人が持つ資質を診断するツールで、個人の価値観に基づいて無意識に繰り返される「感情・思考・行動の傾向性」を見出すことができる。意思決定が本人の価値観に依拠すること、異なる価値観同士のぶつかり合いが倫理的ジレンマを生むことを鑑みると、まずは自分がどのような「価値観」とそれに基づく見方や行動をとるのかを理解した上で、対人援助者として他者の「価値観」をどう受け入れていくのかが重要になってくる。また、SF を通して最初に「自分を知る」ことから始めることで、倫理的問題をよそ事ではなく、自分の考え方や行動の一つ一つが関連していることを理解することにつながり、倫理教育が学習者に押し付けかねない「こうあるべき」論に陥ることを避けることができる。つまり「自分を知る」､「他者を知る」ことを通して自身の行動特性や考え方の傾向を認識し、それを元に個々の倫理的価値観を見出し共有し認め合うことで、チームで問題に取り組む関心や意欲をあげる仕掛けとして SF を用い､倫理的問題に対する気づきと思考変容を促すことを目的とする研修プログラムを検討した。

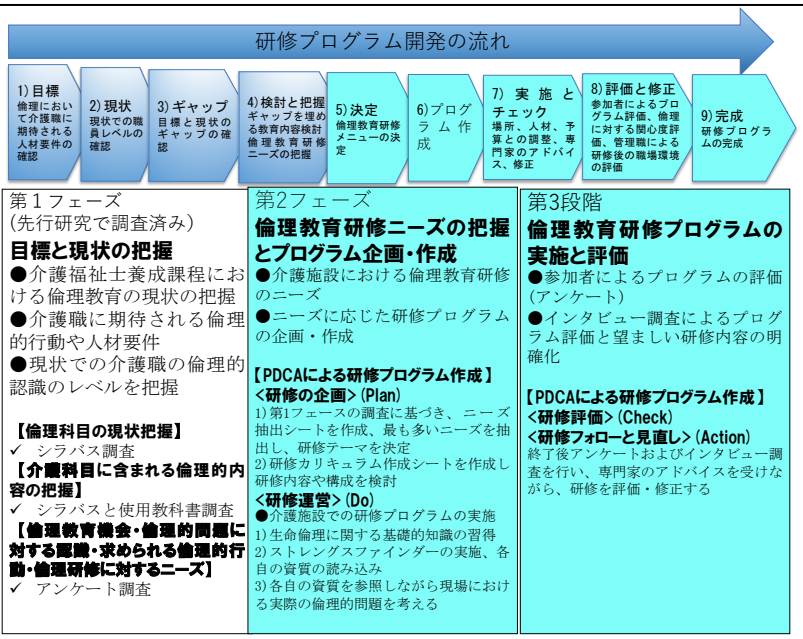
２．研究の目的

先行研究での成果を踏まえて、SF を通して倫理的問題に対する参加意識と思考変容を促す倫理教育研修プログラムを開発し、その評価を行う。

３．研究の方法

【方法】研究代表者が行った先行研究[4]を元にニーズを抽出し、図１に基づき倫理教育研修プログラムの企画・作成、実施と評価を行った。

図1



1） ニーズの抽出

自分のこととして倫理的問題に関心を寄せられること、自分が問題をどのように捉えているのかに気づくこと、具体的な問題に基づく問題への思考方法を知ること、問題を周囲と共有できること、取り組みへのサポート（承認）が得られることがニーズとして抽出され、そのために「倫理的問題に関心を寄せられるような仕掛け」、「自分自身の問題に対する思考過程を知る」、「具体的な事例に基づく問題の考え方を知る」、「倫理的問題に取り組む意欲が持てる」という点で研修方法に工夫が必要であった。

2） 研修方法

抽出したニーズに基づき、プログラムを作成し、以下の内容で実施した。

【研修目的】自己と他者の考え方や物の見方（資質による感情・思考・行動の傾向性）を把握し、倫理的問題に関心を持つことができる、取り組む意欲を持つことができる

【研修内容】

Step1：「生命倫理の基礎知識の理解」

Step2：「自分と他者の傾向性を生かして倫理を考える」

Step3：「介護現場における具体的な倫理問題について考える」

【時間及び期間】各９０分程度、３回講義/３-6 ヶ月

【対象者】老健 3 施設・中堅職員（3 年目以上）：84 名、SF 結果の共有に同意できる者

2）研修評価

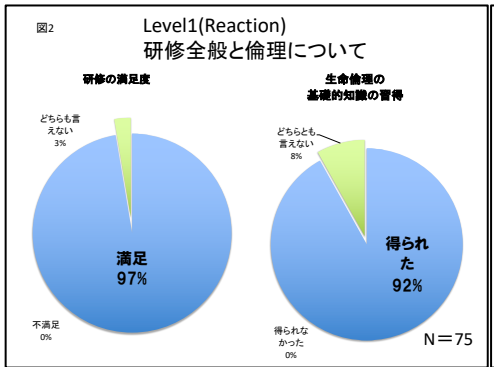
カークパトリックの 4 段階評価と ROI の手法を参考に、参加者へのアンケート調査で倫理的問題に対する関心、思考変容を、管理者に対するインタビュー調査で他覚的変化を把握し、研修内容を評価する。

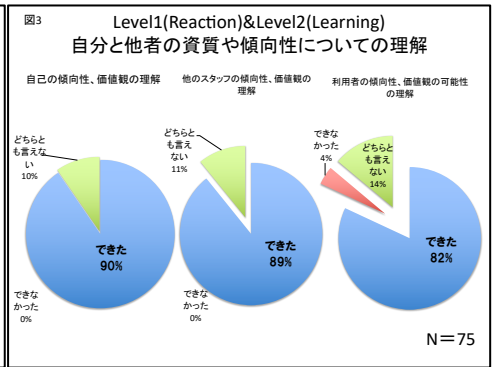
倫理的配慮：第 1 段階の研究対象は、公表されているデータを利用しているため、倫理的配慮として記載すべき事項は特にない。第 2 段階については、SF 受検とその結果をグループワークで開示することに同意できる者のみを対象とし、自由意思による参加であること、いつでも同意撤回が可能なこと、データ管理などの個人情報の保護につとめることなどを文書で説明し同意が得られた者を最終対象者とした。なお本研究は筆者の所属機関における倫理審査専門委員会にて承認されている(承認番号 27-22)。

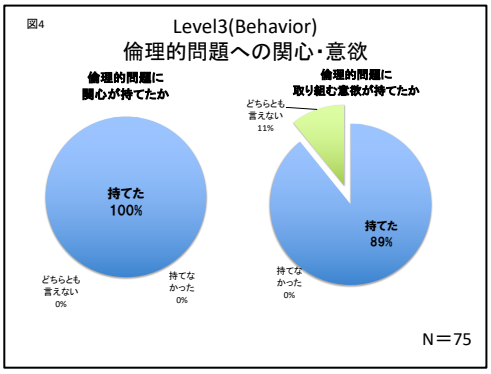
４．研究成果

１・参加者による研修評価

参加者による研修評価をアンケートにより実施した。アンケート回収率は 90%(84 部配布/76 回収(1 部逸脱))だった。研修全体の満足度は 97%が満足と回答し、生命倫理の基礎的知識の習得については知識が得られたと回答した者は 92%であった（図 2)。次に SF による資質、思考・行動の傾向性の理解では、90%が理解できたと回答し、他者の資質、思考・行動の傾向性の理解については 89%が理解できたと回答した(図 3)。倫理的問題への関心や、問題に取り組む意欲が持てたかについては、参加者全員が関心を持てたと回答し、89%が問題に取り組む意欲を持てたと回答した（図 4)。







2・管理職による研修評価

研修後だいたい 6 ヶ月くらい経過したのち、管理者に対してインタビュー調査を行い、管理職による研修評価を分析した。

各ユニットの管理職による研修後の評価は､92%が研修後に SF について話す機会が増えたと回答し、8%がどちらとも言えないと回答した。話す機会が増えたと回答した管理職は、「SF をきっかけに会話が増えてよかった」、「お互いの資質を話し合うことで話す機会が増えた」を理由に挙げていた。どちらとも言えないと回答した管理職は。その理由として「忙しくて話す余裕がない」、「研修から時間が経ってしまうと内容を忘れてしまう」などを挙げていた。SF は職場の倫理的問題を解決するのに役立つかといった質問については､90%の管理職が役立つと回答し、「問題を様々な視点で考えることができる」、「みんなで一緒に問題を解決しようとする雰囲気が生まれた」などの理由を挙げていた。10%の管理職がどちらとも言えないと回答し、その理由として「倫理的問題を考える時にうまく SF を使えない」、「SF をよく理解しているファシリテーターが必要」などが挙げられた。

さらに､研修後に倫理的問題について話し合う機会が増えたかどうかという問いに対して､89%が増えたと回答し、11%がどちらとも言えないと回答した。増えた理由として、研修を通してお互いに対する理解が深まり､「問題に取り組む空気が生まれた」､「問題を話題にしやすくなった」等が挙げられ、どちらとも言えないと回答した理由として、「業務が多忙で話せない」、「忙しくて話す機会が持てない」等業務の多忙を理由に挙げていた。また SF と倫理研修の組み合わせは職場の倫理的問題を解決するのに役立つかという問いについては、82%が役立つと回答し、14%がどちらとも言えない、4%が役に立たないと回答した。役立つと回答した理由として、「倫理的問題を様々な視点でみることができる」、「SF によってお互いの理解が深まり、一緒に倫理的問題に取り組んでいく意欲が生まれる」などが挙げられた。どちらとも言えない、役に立たないと回答した理由として､「倫理的問題は解決がつかないので、どんな研修をやってもうまく応用できない」が挙げられた。

3・SF を用いた倫理研修の効果と課題

肯定的な回答の理由を内容分析したところ、研修の効果として以下の 6 項目が挙げられた。

1）倫理的問題への関心の高まり・倫理的問題の「難しさ」のイメージ緩和

- 倫理的問題の「難しい」というイメージが和らいだ
- 倫理的問題に興味がわき、取り組んでみようと思った
- SF と組み合わせることで、倫理的問題を含めて様々な人・出来事への理解が深まった
- 知識だけでなく、自分を振り返ることで倫理を考えるのは非常に興味深かった

2） 自分の資質や傾向性の理解によるエンパワメント

- 自分の資質や傾向性を知ることで自分を認められて、モチベーションが上がった
- 自分の資質や傾向性を知ることで自分の意見を大事にして伝える気持ちになった

3） 他者の資質を理解することによる視点のひろがり

- それぞれの考えや価値観があるので、良い悪いではなく、話し合う、伝え合うことが重要だとわかった
- 今までは考えが合わないから避けていた人にもいろいろな思いがあり、一緒に問題を考えてみれば視野が広がることを体感した

4） 様々な人と協働していく意欲の高まり

- お互いの資質を踏まえながら話し合うことで、解決する力が倍になる気がした
- みんなで考えることが楽しくなった

5） 倫理的問題に対する当事者意識の芽生え

- 自分を知った上で問題を考えると、問題を自分たちのこととして考えることができた

6） 利用者（ケアを受ける人）に対する理解の広がり

- 利用者にはどんな資質や傾向性があるのだろうと考えることがケアへの意欲になる

また、どちらとも言えないと回答した理由を分析したところ、以下の 4 項目が挙げられた。

1）完全な正解が出せない倫理的問題の特質

- 倫理は正解がないからやはり難しい
- 倫理について考えると答えがないから辛くなる

2） 業務や人間関係などの職場環境の問題

- 日々の業務で倫理を考える時間や気持ちの余裕がない
- 倫理に関心が持てたが、実際には人間関係や職場環境から難しい

3） SF を理解するために、ある程度の時間や知識を要する

- SF についての知識をさらに学ぶ必要がある
- SF を倫理的問題に生かすためにもっとトレーニングが必要である

4） SF と倫理を組み合わせた研修のため、研修自体にある程度の時間を要する

- 研修にある程度の時間がかかるため、忙しい勤務のなかで参加するのが難しい

4・SF を用いた倫理研修の今後の検討課題

SF を用いた倫理研修の実施によって、以下の３つの課題が明らかになった。

1） コストの問題

SF 受検に費用が必要なため、研修内容そのものにコストがかかる

2） SF について解説できる人材

SF について解説できる人材が必要である。

3） 研修にある程度の時間を要する

倫理の基礎知識、SF テストの受検、SF と倫理的問題をリンクさせて様々な角度から事例を検討する、などを行うため、ある程度の時間が必要となる

4） 問題解決に影響する課題への対応

倫理的問題の特質が内包する解決の難しさは依然としてあるため、さらなる検討が必要である。また問題解決に影響を及ぼす職場環境の改善も視野に含めて検討していく必要がある。

4・結論

調査結果により、SF を用いた倫理研修は意欲向上や動機付けといった点で効果があるが、コストや教授できる人材の確保等、まだまだ解決しなければならない課題もいくつか見出されており、今後さらなる改善を行っていく必要があることが明らかになった。

---

[1] 厚労省：社会福祉士及び介護福祉士法施行規則の一部を改正する省令. 2016 年 3 月 31 日制定

[2] 角田ますみ：シラバスからみる大学における介護福祉士養成課程の倫理教育. 生命倫理 26(1)、35-45、2016

[3] 角田ますみ：介護施設に勤務する介護福祉士の倫理的問題の認識や対処と倫理教育の現状. 生命倫理 27(1)、26-38、2017

[4] 前掲 2,4

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 角田ますみ	４．巻 28
２．論文標題 介護福祉士養成課程（4年課程）における介護倫理教育-介護科目で講義される倫理的内容の分析を通して-	５．発行年 2018年
３．雑誌名 生命倫理	６．最初と最後の頁 75-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 角田ますみ	４．巻 27
２．論文標題 介護施設に勤務する介護福祉士の倫理的問題の認識や対処と倫理教育の現状	５．発行年 2017年
３．雑誌名 生命倫理	６．最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 角田ますみ	４．巻 26
２．論文標題 シラバスからみる大学における介護福祉士養成課程の倫理教育	５．発行年 2016年
３．雑誌名 生命倫理	６．最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 角田ますみ
２．発表標題 ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの評価
３．学会等名 日本生命倫理学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 MASUMI SUMITA
２．発表標題 Development of Ethics Training Program for Care Workers Using Strength Finder
３．学会等名 20th Nursing Ethics Conference and 5rd International Ethics in Care Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 角田ますみ
２．発表標題 ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの開発
３．学会等名 日本生命倫理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 MASUMI SUMITA
２．発表標題 Current Ethics Education in Care Worker Training Courses at Japanese Universities by Syllabus
３．学会等名 19th Nursing Ethics Conference and 4rd International Ethics in Care Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 角田ますみ
２．発表標題 介護福祉士養成４年課程における介護倫理教育-介護系専門科目内で講義される介護倫理の内容分析を通して
３．学会等名 日本生命倫理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 角田ますみ
２．発表標題 護施設に勤務する介護福祉士の倫理的問題の認識および対処と倫理現任教育の現状
３．学会等名 日本生命倫理学会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計1件

１．著者名 角田ますみ（編者）	４．発行年 2019年
２．出版社 メヂカルフレンド社	５．総ページ数 287
３．書名 患者・家族に寄り添うアドバンス・ケア・プランニング―医療・介護・福祉・地域みんなで支える意思決定のための実践ガイドー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考